

第十二講 「ちよつとでたくさん」な言葉

★ちよつとは少しで短く程度が小さい感じ

★たくさんは多くて長く程度が大きい感じ

ちよつと類

すこし(副)・・・いささか、わずか

あからさま(形動)・・・急に、たちまち、かりに、ほんのしばらく、

※「あからさまくず」の形で「かりにもまったくくしない」の打消しとなる。

いささか

(形動)・・・かりそめであるさま、わずかである、ほんのすこし

(副詞)・・・わずかばかり、少し。(打消しを伴い) 全く、全然、少しも

かり(名・形動)・・・一時的、まにあわせ、かりそめ

かりそめ(名・形動)・・・一時的だ、間に合わせだ、本格的ではない、儂い、ちよつと、ふと

たくさん類

あまた(副)・・・数多く、たくさん、非常に、はなはだ、

こころ(副)・・・(数量) たくさん、(程度) たいへん、たいそう

※「こころ」もほぼ同意だが下に助詞「の」を伴うことが多い。

せめて(副)・・・つとめて、無理に、しいて、非常に、きわめて、はなはだしく

※感情や状況がさし「せまって」いて、強引なイメージ

Ex. やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて

——だんだんと白くなっていく山に接するあたりの空が少し明るくなって

——この所に住み始めるときはあからさまと思ひしかども

——この場所に住み始めたときはほんのしばらくと思つたけれど

——いづれの御時にか女御、更衣あまたさぶらひ給ひける中に

——どの帝の御代であったらうか、女御や更衣が大勢お仕いして

古典単語 形容詞シリーズ

1 いたし

甚し…低度が甚だしい、激しい、

非常に良い、素晴らしい

痛し…痛みを感じる、苦痛である、

いたわしい、愛しい

2 あたらし…(惜し) おしい、もったいない、

(新し) 素晴らしい、立派だ

3 いはけなし…幼い、あどけない

4 いぶせし…気が晴れない、うっとうしい

不快だ、気がかりだ、むさくるしい

5 いまめかし…現代風だ、目新しく洒落ている

今更の感じである、わざとらしい

6 えうなし(要なし)…必要がない、役に立たない

7 おほけなし…身の程知らずだ、恐れ多い

8 かしこし

賢いし…利口だ、素晴らしい、非常に、好都合だ

畏れし…畏れ多い、もったいない、恐い

9 さがなし…意地が悪い、いたずらだ

10 なつかし…親しみやすい、心惹かれる、慕わしい

11 はしたなし…間が悪い、具合が悪い、

どちらつかずだ

12 まさなし…(道徳的に)良くない、予想外だ

13 ゆくりなし…思いがけない、不用意だ

14 わびし…やりきれない、がっかりだ、心細い

かぐや姫といたく泣き給ふ

— かぐや姫はとも激しくお泣きになる

頭いといたくて、苦しく侍れば

— 頭もひどく痛くて苦しゅうございますので

若くて失せにし、いとほしくあたらしくなん

— 若くてお亡くなりになってしまったのは大変気の毒で惜しいことでしたよ

いはけなくかいやりたる額つき、髪ざし、いみじううつくし

— あどけなく(髪を)かき上げた額の形や髪の様子はたいそうかわいらしい

道すがら汗のいぶせかりつれば、身を清めて

— 道中の汗が汚らしかったので、体を清めて

いまめかしくきらかならねど

— 当世風ではなくけばけばしくないが

その男、身をえうなきものに思いなして

— その男は、自分の身を役に立たないものと思ひ込んで

わが心ながらもおほけなく、いかで立ち出でしにかと

— 自分の心でありながらも身分不相応でどうして出てきたのであろうかと

はかなき親にかしこき子の勝るためしは

— つまらない親より才知に富んだ子がすぐれている例は

大海の波はかしこし

— 大海の波はおそろしい

さがなき継母に憎まれむよりは

— 意地の悪い継母に憎まれるようなよりは

花橋の軒近く風なつかしうかをりけるに

— 花橋が軒近くに風に吹かれて(昔)なつかしく香気がただよっていたときに

はしたなきもの、こと人を呼ぶに、我ぞとてさし出でたる
— 間の悪い者、別の人を呼んでいるときに、自分だと思
って出ていった場合

屋の上に居る人どもの聞くにいとまさなし

— 屋根の上に居る人たちが聞くと、ひどくみつともな
い

ゆくりなく風吹きて

— 不意に風が吹いて

身ひとつばかりわびしからで過ぐしけり

— 自分一人だけは不自由ではない様子で過ごしていた